

令和 5 年度

大阪教育大学

附属学校園案内

教員人事交流制度について

Schools Attached to Osaka Kyoiku University



国立大学法人

大阪教育大学

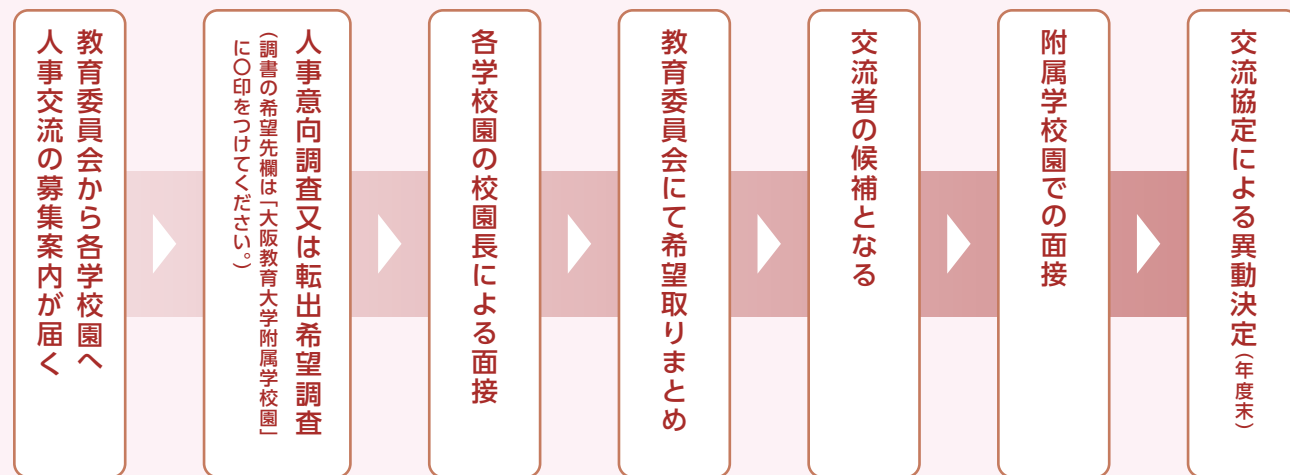
大阪教育大学附属学校園で働いてみませんか

人事交流とは…

大阪教育大学は、大阪府及び府内市町村の教育委員会と、人事交流に関する協定を結んでいます。この協定のもと、現在11の附属学校園の教員の約7割が、人事交流制度による先生方であり、教育実習や研究活動等の中心となって活躍しています。人事交流の手続きは次のような流れになります。

※各附属学校園において、その年度の人事交流枠がある場合に限りです。

◎人事交流の流れ(教育委員会により異なる場合があります)

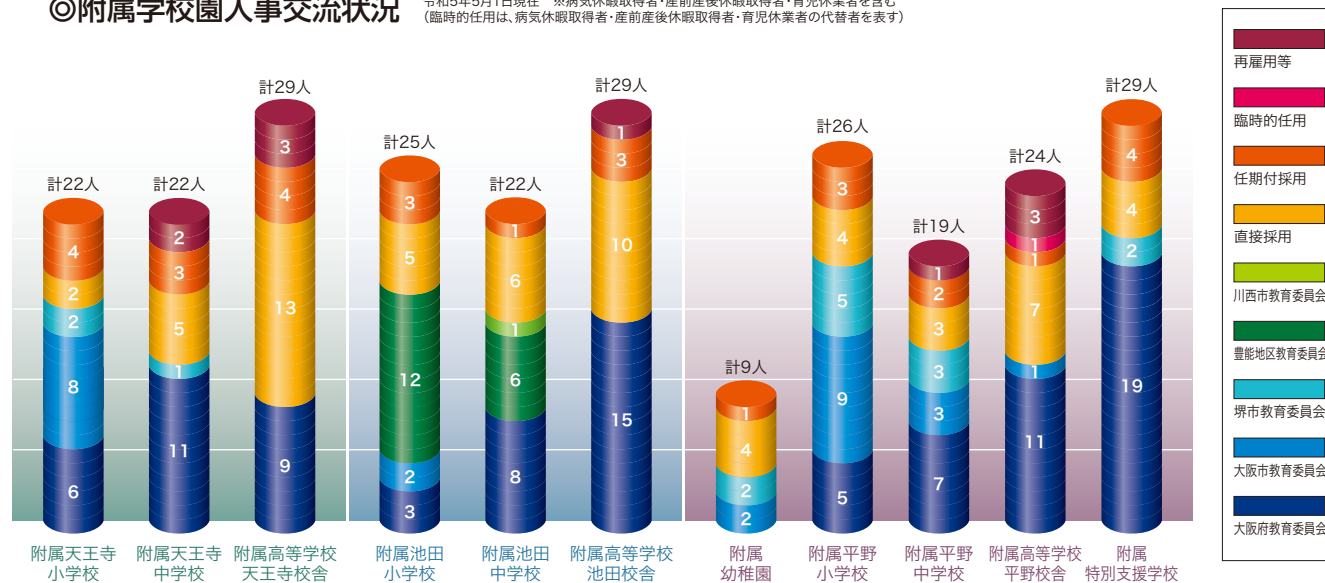


附属学校園でできること

- 各附属学校園の設定課題に基づいた研究活動を通じて、教育実践の視野と力量が広がります。様々な研究発表の機会があります。国の委託事業等、先進的な教育研究を推進していますので、自身の資質向上はもちろん、交流元に帰られてから還元できる知識・経験・能力を得られるよい機会となります。
- 自分の設定したテーマで、教科や生徒指導に関する研究ができます。
- 教育実習生の指導を通じて、自らの実践を見直し教師の在り方を常に振り返ることができます。
- 連合教職大学院への内地研修制度が利用できます。(ただし、毎年度推薦枠に限りがあります。)
- 本学附属学校園には、多くの自治体から教員が人事交流で来られており、日常的に異なる校種の教員や大阪教育大学の教員と連携・協働して教育研究活動を行える環境です。

◎附属学校園人事交流状況

令和5年5月1日現在 ※病気休暇取得者・産前産後休暇取得者・育児休業者を含む
(臨時的任用は、病気休暇取得者・産前産後休暇取得者・育児休業者の代替者を表す)



未来を目指して附属でチャレンジ!

世の中が変わり、世の中の暮らしが変われば、そこで暮らすために身につけておかなくてはならないことは、当然変化します。課題を発見し解決する力、他者とコミュニケーションをとりチームで働く力、テクノロジーを活用し知識を役立てる力など、現代の子供たちが身につけなければならないものは多岐にわたり複雑化してきています。子供の成長を支える先生方は、日々奮闘されておられることでしょう。

大阪教育大学附属学校園では、子供を育てるという原点に立ち返り、各地区、各校園種ごとに、特徴的な教育活動が実践されています。その附属学校園という舞台で、未来の学校の創造に挑戦してみませんか。

附属学校園で経験する充実した教師生活は、これまでとは異なる視点で教育を捉え直すきっかけとなるでしょう。身につけられた教員としての力量は、交流期間を終えてからも、地域や学校でのご活躍につながるに違いありません。素晴らしいポテンシャルをお持ちの先生方に集まっていたいただき、附属という場で未来の学校の創造が始まることを期待しています。



理事・副学長(附属学校担当)
附属学校統括機構長

広谷 博史

附属学校統括機構

令和2年度に大学と附属学校園をつなぐ組織として附属学校統括機構を設け、その機構のもとに高等学校3校舎を含む11の附属学校園(幼稚園:1園、小学校:3校、中学校:3校、高等学校:1校3校舎、特別支援学校:1校)を統括する体制へと改革しました。

附属学校統括機構は、円滑な学校園の運営、指導、教育、研究及び学校安全等の充実を図るとともに、さらに大学部局との連携強化に取り組んでいます。

また、附属学校園にあっては、大学の教育研究・教育実習の場として重要な役割を果たすとともに、それぞれ地区ごとにテーマを持って研究に取り組み、連絡進学をはじめとする相互連携も行っています。

附属学校統括機構

附属天王寺小学校

附属天王寺中学校

附属高等学校天王寺校舎

附属池田小学校

附属池田中学校

附属高等学校池田校舎

附属幼稚園

附属平野小学校

附属平野中学校

附属高等学校平野校舎

附属特別支援学校

天王寺地区

研究テーマ
(平成22年度～)

人間と科学の調和を拓く
リテラシー教育

物事に対する知的好奇心を基礎に、科学的・論理的な知識や技能を活用し、課題の発見や解決への道を体験的な学びを通して開拓していくリテラシーの育成をめざしています。

TENNOJI District

附属天王寺中学校



「質実剛健」の校風を持ち、歴史と伝統を誇る「天王寺学びのもり」から多くの有為な人材を輩出してきました。本物体験とコミュニケーション能力を高める場が数多くプログラムされています。さらに、新しい文化や情報の発信を行い、教員・生徒をはじめ保護者やステークホルダーすべての人々の力を結集して、「学びたい学校、学んでよかった学校、学ばせたい学校」をめざしています。

附属天王寺小学校

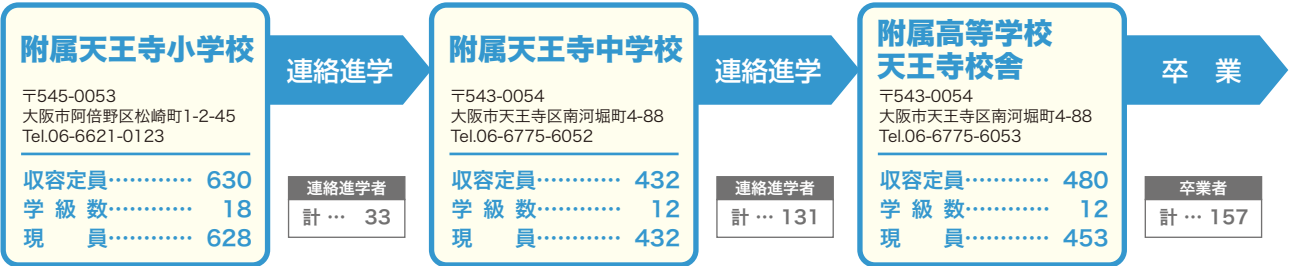


本校は、長年教科研究を深めるべく、校内研修・校内研究を推進し、その成果を発信しています。平成30年度には、文部科学省の委託事業を受け、働きやすい環境づくりをめざして、業務改善を進めました。令和2、3年度には、国立教育政策研究所の教育課程指定校として「教科横断的な学習としてのSTEAM教育」を推進し、令和元年度から設置している「ぼうさい科」も含めた汎用性の高いカリキュラムの開発に力を注いでいます。

附属高等学校天王寺校舎



生徒の自主的な創意工夫を尊重した、協働的な学習・教育環境を作っています。本物・実物の体験を重視し、生徒の自治会活動なども含め、多様な知的好奇心に応える活動の場を提供しています。スーパーサイエンスハイスクール(SSH)第3期がはじまり、国際的に協働する文理融合型学習者の育成を目指し、姉妹校である米国、タイの理数科高校との交流も積極的に進めています。



●数字は令和5年5月1日現在

池田地区

研究テーマ
(令和5年度～)

グローバル社会を協働的に
創造する資質・能力の育成

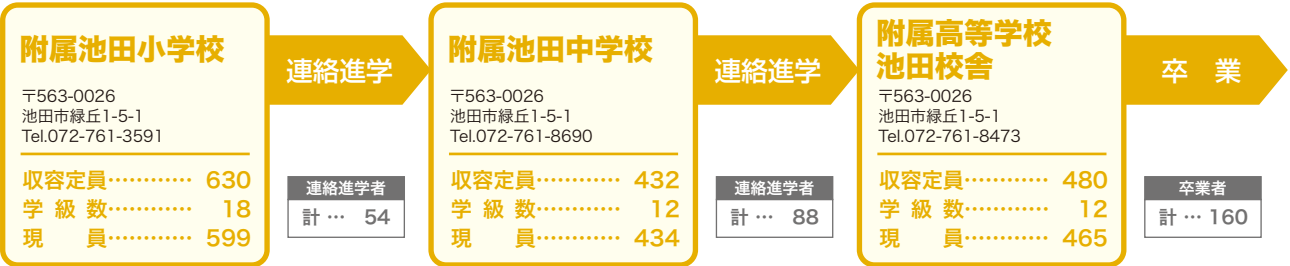
持続可能な社会の実現に向けて、「安全」等の様々な課題を自分のこととして捉えられるよう、そして、多面的な視点で論理的・批判的に考え、主体的に学び続けることで、VUCAの未来を自主・自律の精神をもって生きていくことができる資質・能力の育成をめざしています。

IKEDA District

附属池田中学校



自主・自律の精神のもと、コミュニケーション力、探究力を重視し、「安全教育」「道徳教育」「地域活動」を通じて、世界や社会の課題に向き合い、多様な人々と共に生きる豊かな心を育む教育を行っています。また、平成27年3月にセーフティプロモーションスクールに認証され、令和2年1月に国際バカロレアワールドスクールに認定されました。



●数字は令和5年5月1日現在

附属池田小学校



学校安全の取組が認められ、平成27年3月に日本で最初のセーフティプロモーションスクールに認証されました。「安全教育」「道徳教育」「協働活動」を通じて、自他の命や考えを大切にし、共にによりよい社会を築こうとする資質を養う教育を行っています。また、教育研修会を開催し全国の教員の方々と交流して、よりよい授業づくりの研究を推進しています。

附属高等学校池田校舎



自由・自主・自律の校風のもと、生徒一人ひとりの個性を大切にしながら、「安全教育」「国際教育」「創造活動」を通じて、持続可能な社会の実現に向けた課題を世界の人々と協働して創造的に解決する力を養う教育を行っています。令和2年度からWWLコンソーシアム構築支援事業の共同実施校となり、令和4年3月にはセーフティプロモーションスクール認証校となりました。

◎ 労働条件・環境

交流協定により公立学校から人事交流で大阪教育大学附属学校園に採用される教員の処遇については、国家公務員の処遇を参考に、就業規則等で規定しており、概要は次のとおりです。

給与は、基本給に教職調整額、義務教育等教員特別手当、地域手当、通勤手当、住居手当、扶養手当、基本給の調整額、管理職手当、特殊勤務手当などが勤務条件等により加算され、原則として毎月21日に支給されます。期末・勤勉手当は原則として6月30日及び12月10日に支給されます。

勤務時間については、各附属学校園の勤務実態等を考慮の上「1年単位の変形労働時間制」を適用します。この制度は、業務に繁閑のある事業場において、繁忙期に1日の労働時間を長時間に設定し、かつ、閑散期に1日の労働時間を短時間に設定したり、休日を増やしたりすることで労働時間を効率的に配分しようとするものです。

年次休暇は、1年につき20日が与えられ20日を限度として翌年に繰り越すことができ、最大で40日付与されます。また、1時間単位での取得が可能です。

病気休暇は、連続90日(病気休暇と病気休暇の間隔が実勤務日数20日に満たないものは連続とみなす)を超えることができません。

年金・退職手当は、双方で通算されます。

なお、公務員ではないため、雇用保険や労災保険が適用されます。

共済組合は、文部科学省共済組合に加入し、健康保険及び年金(第2号厚生年金被保険者)の適用を受けます。年金は、制度により国家公務員共済組合と地方公務員等共済組合での加入期間が通算されます。

(上記内容は、今後変更される可能性があります。)

労働条件に関する詳細については右のQRコードで確認できます。ご不明な点等ございましたらお問い合わせください。

人事課人事係 E-mail:ninyo@bur.osaka-kyoiku.ac.jp



◎ 研究会 参画状況

大阪府内をはじめとする、保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、教育委員会、大学及び各種学会・研究会などの依頼を受け、講師、発表者、パネラー、研究協力者として多数の教員が参画しています。

各校種からの参画者数(のべ人数)は下記のとおりです。

附属幼稚園 …………… 5人

附属小学校 …………… 32人

附属中学校 …………… 56人

附属高等学校 ……… 77人

附属特別支援学校 … 10人

合計…180人

※令和4年度実績

◎ 大学院での研修について

より高度な知識を習得し、資質・能力の向上を図り、そこで得た知識・実践力などを附属学校園に還元するシステムとして、内地研修制度があります。

研修期間は2年で、研修期間中も給与は通常どおり支給されます。

天王寺キャンパスで夜間開講される大学院連合教職実践研究科(教職大学院)でのみ研修が可能です。

入学選考があり、検定料、入学科は個人負担となりますが、授業料が免除されます。

◎ 教育実習について

教員を養成する上で、最も重要とされるものの一つに教育実習があります。附属学校園では、年間を通じ、数多くの教育実習生を受け入れています。

小学校…167人、中学校…119人、高等学校…46人、

幼稚園…17人、特別支援学校…12人

※令和4年度本学学生の受入実績

平 野 地 区

研究テーマ

(平成28年度～)

生涯発達の視点に基づいた校種間連携型一貫教育

すべての校種が近接する地区の特色を生かし、五校園が日常的に連携して子どもたちの交流・共同学習や教員の協働と研究を進めています。なかでも、幼稚園から高校まで学び続ける環境と特別な支援を得ながら育つ環境に基づく、全国的にもめずらしい「五校園共同研究」に取り組み、長期的な子どもの成長の視点にたった主体性の育成や探究的な学びの指導など、今日的な教育課題に焦点をあてた研究に進進しています。

HIRANO District

附属平野小学校



教育目標「ひとりで考え ひとと考え 最後までやりぬく子」を基盤とし、平成28年度から文部科学省研究開発学校として新教科「未来そうぞう科」及び「各教科における『未来そうぞう』」の研究に4年間取り組み、現在は教育課程特例校として継続して研究を行っています。教職員・保護者・卒業生・地域が一体となって、子どもたちの健やかなる成長に向けて、特色ある学校づくりに取り組んでいます。

附属高等学校平野校舎



平成27年度よりスーパーグローバルハイスクールに、令和2年度よりWWLコンソーシアム構築支援事業の拠点校に指定され、国内外の大学や高校等と連携し、海外研修やグローバルイシューの解決に向けた研究活動を通して、多様性を尊重し主体的に行動するグローバルリーダーの育成に取り組んでいます。また、「探究学習の指導法(平野メソッド)」の普及にも努めています。

附属幼稚園



「すこやかに、あたたかく、遊びに生きる子ども」という教育目標のもと、主体的に生活する子どもの育成をめざしています。園内の豊かな自然環境(実のなる木、様々な動物等)、ものや身近な人々との関わりを通して学びが深まるよう取り組んでいます。また、保護者による「手づくり給食」を実施し、保育内容にも食の関心に繋がる内容を取り入れながら食育を推進しています。

附属平野中学校

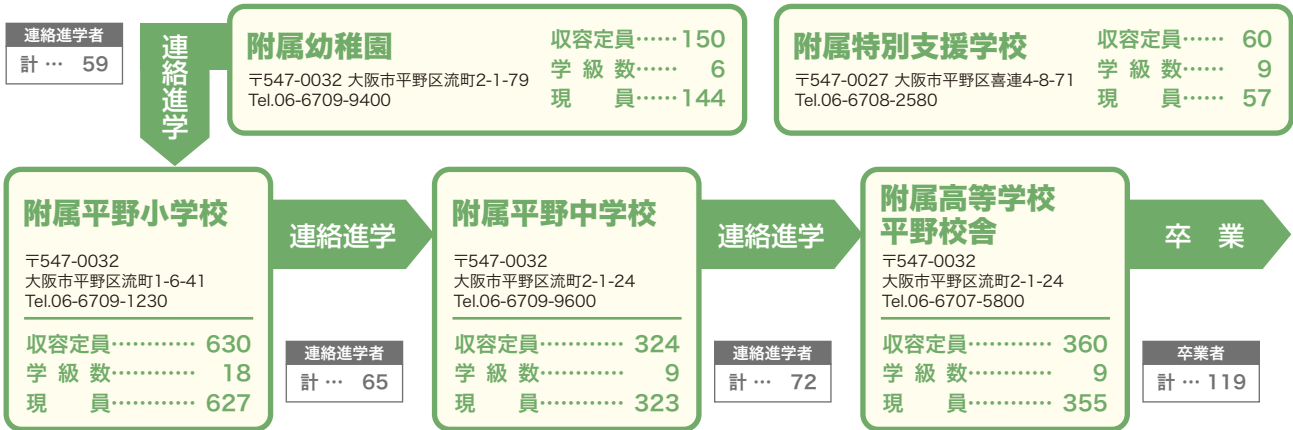


本校では、学び続けるための基礎基本として、「自ら気づく力」「深める力」「創造する力」を育むことをめざしています。学校・家庭・地域が一体となり、さらに平野地区の五つの校園の叡智を集結しながら教育実践を重ねています。また、「附中生は行事で育つ」と言われるように、授業だけでなく、特色のある学校行事も活かしながら、自律への意志や協働への意欲を高めています。

附属特別支援学校



本校は、知的発達障害のある児童生徒が学んでいる学校です。一人ひとりの存在と個性を尊重した教育支援を日々実践しています。小学部から中学部、そして高等部まで一貫したキャリア教育の視点を取り入れ、自ら考え行動できること(自立)、仲間と支え合い共に活動できること(相互依存)、主体的に社会に関われること(社会参加)を目標として、子ども・保護者・地域にとって魅力ある学校づくりに取り組んでいます。



●数字は令和5年5月1日現在

人事交流により附属学校園で勤務されている先生方の感想



塩根 航平 教諭

「友だちと交流しながら考えたい」「今は交流じゃなくて、もっとひとりで考えたい」授業中、子どもからこんな言葉をよく聞きます。本校は子どもの「やりたい やってみたい」を大切に、「ひとりで考え ひとと考え 最後までやりぬく子」という目標のもと深い学びを実現しています。先の子どもの言葉はその積み重ねの結果です。平野に来るまでの私は、

授業の型をつくり子どもを当てはめていたように思います。でも平野の子どもがそう言うってくれることで、一人一人に合う学びを考え、授業を構成するようになりました。”誰のための授業か”答えは当たり前ののですが、平野に来てその本当の意味がわかったような気がします。子どもから学ぶことが多い学校です。

附属平野小学校 勤務

交流元:大阪市教育委員会(交流5年目)



萩谷 桃子 教諭

私が附属池田小学校に赴任して、一番感じたことは、教師としての学びの環境に恵まれていることです。研究授業の数が圧倒的に多く、授業者としても、参加者としても、多くの先生方と意見を交わし、授業研究をすることができます。また、本校の授業では、子供たちが目の前にあるさまざまな課題に夢中になって取り組む姿や、「もう少し時間がほしい。」

い。」「つぎはこんなこともやってみたい。」などの声をよく聞き、子供とつくる学びの実践が日々行われています。このように、高い意識をもって学び続ける先生方と子供たちに多くの刺激をもらっています。附属学校という環境で、私自身も教師として学び続けることができることに感謝し、これからも色々な経験を積んでいきたいと考えています。

附属池田小学校 勤務

交流元:大阪府豊能地区教職員人事協議会(交流2年目)



井上 純子 教諭

本校は「自ら気づき、深め、創造する力を育む」を今年度の学校目標としています。この目標を達成するために、自らの授業のあり方を常に見直し、改善することで、私自身の素地が鍛えられていると感じています。附属中学校では、日々の研鑽のなかで得られるさまざまな価値観によって、これまでの自分の価値観を壊し、再構築する機会が多く与えられています。また、日々の学校生活や授業で生徒と過ごすな

かで得られる新鮮なものの見方や考え方は、私に新たな視点を与えてくれています。今では、そのようなものの見方や考え方を、授業の中でどれだけ引き出すことができるのかを考えながら、授業をつくりあげることに挑戦しています。今後も向上心を忘れず、前進し続けるよう努めていきたいと考えています。

附属平野中学校 勤務

交流元:堺市教育委員会(交流5年目)



加藤 晃浩 教諭

授業力向上を第一目標に附属高校での人事交流を決めました。実際にはそれ以上に、今後の教員生活の軸となるものを得た気がしています。附高の教育では、画一的な指導で生徒を「管理」することがありません。価値ある伝統は守りつつも慣例にとらわれず、日頃から議論を重ね、より良い教育を追求していきます。同様に、生徒も自治会行事実施に向けて数々の議論を行い、全校生徒に当事者意識を持たせる

ための工夫を考えます。その傍らで本校「自治」の意義やあり方について生徒と一緒に哲学する時間は、格別です。

本校での勤務経験により、目前の教育活動を生徒の成長にどう繋げられるのかという本質的な問いに立ち返る習慣が身につきました。今後も、生徒の意欲や能力を引き出す術を磨き、必要ときに生徒の背中を押してあげられる教員でありたいです。

附属高等学校天王寺校舎 勤務

交流元:大阪府教育委員会(交流6年目)



桑名 恵美 教諭

「主体的・対話的で深い学び」とはどのように実践するか、教育効果の高い指導とはどのようなものなのか、これらを研究したいと思い、附属中学校への赴任を決めました。附属中学校では教育研究が身近なところにあります。毎年行われる教育研究会では、研究発表を聞くだけでなく、自ら研究発表をする機会があります。科学研究費助成事業への応募も大学を通じてのフォローがあり、同僚と切磋琢磨

して挑戦できます。また、附属天王寺は独自に「一般財団法人 青松会」から研究費の助成を得るチャンスもあります。附属中学校では、富士登山や5泊6日の修学旅行など特色ある学校行事も多く行われています。附属中学校で体験して得たものを、自分のこれからの教育活動に役立てることができるよう、今後も努力し続けたいと思います。

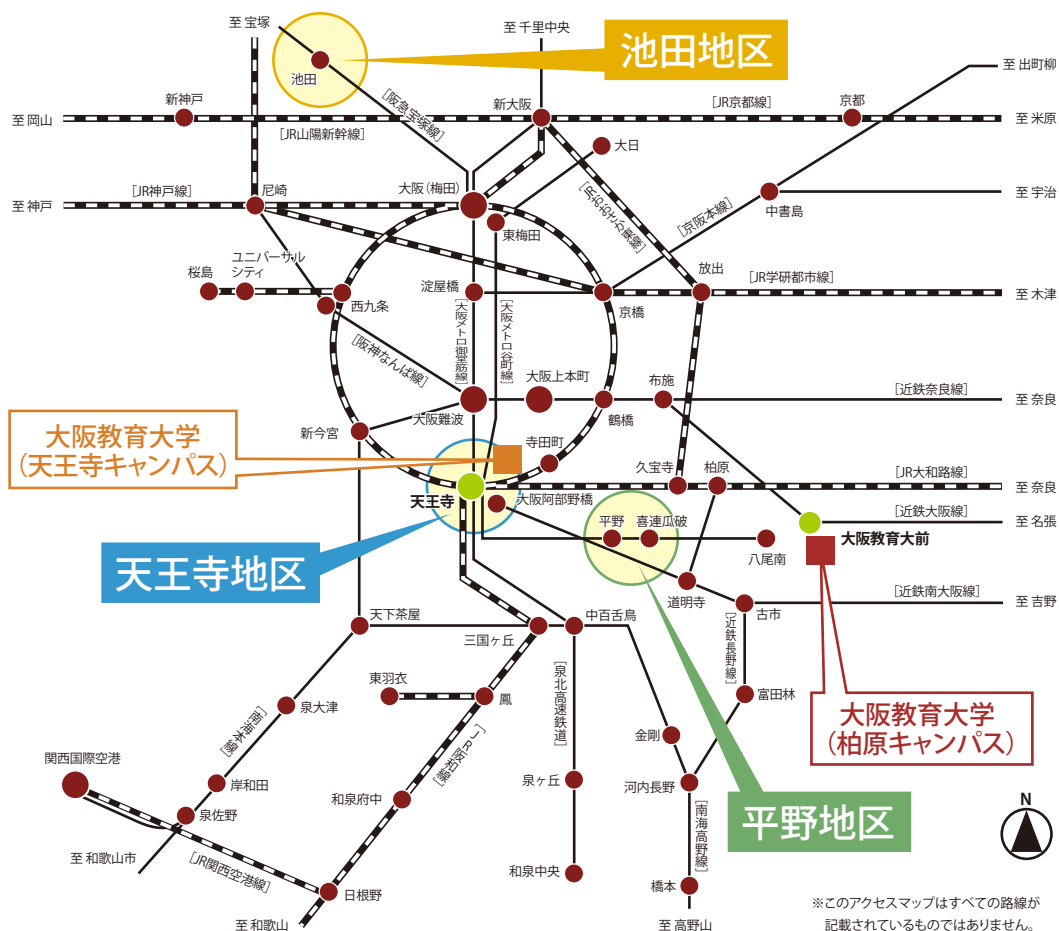
附属天王寺中学校 勤務

交流元:大阪府教育委員会(交流6年目)

各附属学校園の研究発表会等予定

附属学校園では下記の日程で研究発表会等を予定しております。詳細につきましては、各学校園のHPをご覧ください。

■附属天王寺小学校	令和6年2月11日	研究発表会	■附属池田小学校	令和6年2月24日	教育研修会
■附属天王寺中・高等学校	令和5年11月11日	教育研究会	■池田地区	令和5年11月18日	小中高研究発表会
■附属平野小学校	令和6年2月9・10日	教育研究発表会	■附属特別支援学校	令和6年2月10日	研究大会
■附属平野中学校	令和5年11月4日	研究発表会	■附属幼稚園	令和5年12月9日	保育研究会
■附属高等学校平野校舎	令和5年11月4日	教員研修会	■平野五校園	令和5年11月4日	共同研究発表会



編集発行

大阪教育大学附属学校統括機構

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

E-mail fuzoku@cc.osaka-kyoiku.ac.jp

Tel.072-978-4017 Fax.072-978-3262

大阪教育大学Webページ
<https://osaka-kyoiku.ac.jp/>